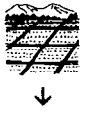
画

二年

画数 8
筆順 一 丆 丙 丙 画 画
オン ガ・カク
クン

成り立ち



たて、よこにせんをひいて、とちをくわけすることをあらわしたもので、〝くわけする〟といういみをあらわした字です。

「くわけのためのせん」のいみから「字のもとになる〝せん〟や〝てん〟」のことを〝画〟というようになりました。

また、〝けいかく図〟のいみや、〝絵図〟〝絵〟のいみにもつかわれます。

〔本字は〝畫〟で、筆の意味を表した〝聿〟と〝画〟との会意・形声字で、「筆を使って区分のための線を書くこと」を表したものである。〕

使い方

▽絵画が大すきですが、どちらかというと、日本画よりも洋画のほうがすきです。

▽その計画はよいとおもいますが、画一てきにおこなうのはどうかとおもいます。

熟語例

▽絵画（〝絵〟のこと。）

▽画家（絵をかくことをしごとにしている人のこと。）

▽日本画（日本どくとくの絵画。黒一色のすみ絵のほか、彩色画もありますが、色彩にとくちょうがあります。）

▽洋画（西洋画のこと。東洋画にたいすることば。西洋ではったつしたようしきの絵画。水彩画、油絵、パステル画などがありますが、おおくは油絵のことをいいます。）

▽計画（計は〝かんがえる〟こと。しごとのしかたやじゅんじょをよくかんがえて、くわけすること。）

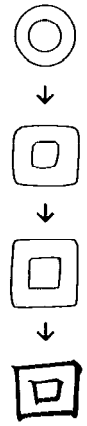
▽画一（一は〝おなじ〟といういみ。すべてを「おなじにくわけする」こと。「すべてをおなじようにあつかう」といういみにつかいます。）

回

二年

画数 6
筆順 ⺆ 回 回
オン カイ・エ
クン まわ＝す＝る

成り立ち



〝円〟を二つかさねたかたちの字で、「ぐるぐる〝まわる〟こと」をあらわしたものです。

〝まわる〟とか〝まわす〟というのが、もとのいみですが、「ぐるっとまわって〝もとにもどる〟」といういみにもつかわれます。びょうきがなおって〝もとどおりになる〟ことを〝回復〟というのがこのれいです。

「ぐるっとまわって、もとにもどる」ことをかぞえるのに〝一回〟〝二回〟といいます。〝一まわり〟〝二まわり〟といういみです。

〔カイは漢音で、エは呉音である。〝会（2年96）〟と同じように仏教に関する古い言葉に〝エ〟と読む習慣が残っている。〕

使い方

▽みんなで、ゴムとびをしました。一回目は、わたしはうまくとべませんでした。二回目は、とべました。

▽トンボが木にとまっていたので、つかまえてやろうとおもいました。トンボの目のまえで、ゆびをくるくる回すと、トンボは目を回すときいていたので、やってみました。けれども、トンボは、にげていってしまいました。

▽テレビで、オランダの風景を見ました。おかの上で、風車が回転しているのが、とてもおもしろいながめでした。

▽回覧板が回ってきました。よんでから、おとなりに回しました。

▽ながいこと、かぜをひいていましたが、いまはもう回復しました。

熟語例

▽回転（ぐるぐる回ること。）

▽回覧（じゅんばんに回して見ること。）

▽回復（もとどおりになること。）